

第4節 学会及び雑誌等発表課題

本節では、研究報告（平成27（2015）年度～令和6（2024）年度）掲載課題を掲載する。

1 水稻に関する研究

表題	執筆者	雑誌，巻，発行年
基肥量と追肥時期が酒米有望系統「栃木酒 27 号」の生育、収量及び品質に及ぼす影響	菅谷和音他 3 名	日本水稲品質・食味研究会、2017
酒米有望系統「栃木酒 27 号」の高品質・安定生産に向けた施肥法の検討	菅谷和音他 4 名	第 245 回日本作物学会、2018

2 麦類に関する研究

表題	執筆者	雑誌，巻，発行年
リポキシゲナーゼ-1 欠失特性を有するビール大麦有望系統「栃木二条 45 号」の育成	大関美香他 12 名	日本育種学会 春季大会、2015
β -アミラーゼが極めて高い大麦「HQ10」の高品質安定栽培法	大関美香他 8 名	日本作物学会 春季大会、2015
2014 年産栃木県内の二条大麦穂発芽被害と穂発芽抵抗性品種の可能性	大山亮他 5 名	日本作物学会 春季大会、2015
ビール大麦「アスカゴールド」「ニューサチホゴールド」の育成と高品質安定多収栽培法の確立	大山亮	日本作物学会関東支部第 105 回講演会、p.8-11、2016
食用大麦品質ぶれを解消する技術の開発	大山亮他 5 名	日本作物学会第 243 回講演会要旨集、p.68、2017
The two-row malting barley cultivar 'New Sachiho Golden' with null lipoxygenase-1 improves flavor stability in beer and was developed by marker-assisted selection	大関美香他 23 名	Breeding Science 67(2)、p.165-171、2017
ビール用大麦の穂発芽耐性育種	加藤常夫	第 21 回穂発芽研究会、2017
硝子率を重視した食用大麦多収栽培技術の検討	大山亮他 5 名	日本作物学会第 245 回講演会要旨集、p.35、2018
有用形質を集積した二条大麦新品種「栃木二条糯 50 号」の開発と食味評価	山口昌宏他 6 名	日本作物学会第 245 回講演会要旨集、p.191、2018
大麦品質ぶれに関する研究： β -グルカン含量や硝子率の変動に関係する要因の解析	大山亮他 5 名	育種学研究 19(別 1)、p.250、2017
大麦品質ぶれに関する研究：近赤外分析機を用いた β -グルカン含量や硝子率の推定	大山亮他 6 名	育種学研究 20(別 1)、p.227、2018
大麦品質ぶれに関する研究：一般栽培麦の硝子率変異の要因解析	大山亮他 6 名	日本作物学会第 245 回講演会要旨集、p.121、2018
オオムギ系統「谷系 QM-1」の極高 β -グルカン特性の原因遺伝子の解析	加藤常夫他 7 名	育種学研究 20(別 1)、p.225、2018
ADP-グルコーストランスポーター遺伝子の新規アレルの同定と複数の機能性成分を高含有するオオムギ品種育成への利用	加藤常夫他 8 名	育種学研究 20(2)、p.124-132、2018
食用大麦における施肥法による硝子率および β -グルカン含量の制御	沖山毅他 5 名	日本作物学会第 247 回講演会要旨集、p.130、2019
栃木県におけるオオムギの多収阻害要因の把握と収益性改善技術の確立	仲田聡他 6 名	日本作物学会第 247 回講演会要旨集、p.134、2019
コムギ縞萎縮病抵抗性の白粒硬質小麦新品種「タマイズミ R」の育成	関和孝博他 10 名	育種学研究 21(1)、p.35-40、2019
栃木県農試における二条大麦の穂発芽耐性育種	加藤常夫	「穂発芽被害ゼロをめざして」穂発芽研究会 20 周年記念誌、2019
Qsd1 強型アレルを導入した穂発芽に強いオオムギ育種素材の開発と新たな QTL の同定	石原島由依他 8 名	育種学研究 22(別 1)、p.162、2020
秋播性二条オオムギ系統および主要オオムギ品種・系統の幼穂凍死率に対する評価	沖山毅他 6 名	日本作物学会第 249 回講演会要旨集、p.184、2020
栃木県におけるオオムギの多収阻害要因の把握と収益性改善技術の確立-茎立期 30 日前の追肥量効果の検証と収量予測の改善-	仲田聡他 6 名	日本作物学会第 249 回講演会要旨集、p.142、2020
温暖地向けの良食味もち性大麦品種「もち絹香」	加藤常夫	みんなの農業広場 HP「注目の農業技術」、2020

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
縞萎縮病に強く、麦芽の溶けが適正なビール大麦の育成	加藤常夫	農業・食品産業分野の研究成果発表会、2019
品質・収量の高位安定化が可能なビール醸造用大麦品種の開発	加藤常夫	アグリビジネス創出フェア イノベーション創出強化研究推進事業成果発表、2019
二条大麦の品種開発－栃木でやろうとしていること－	加藤常夫	「知」の集積と活用の場合 産学官連携協議会「次世代育種技術による品種開発推進プラットフォーム」セミナー発表、2019
オオムギ縞萎縮病抵抗性で、被害粒や穂発芽の発生が少ない多収性ビール大麦新品種「はるさやか」の育成	加藤常夫他 22 名	育種学研究、2021
高根沢圃場においてニューサチホゴールドに感染したオオムギ縞萎縮ウイルス配列の解明	沖山毅他 4 名	育種学研究 24(別 1)、p.27、2022
食用オオムギ品種シュンライにおける硝子率と β -グルカン含有率の変動要因解析と施肥法による両品質の制御	沖山毅他 5 名	日本作物学会紀事 90、p.194-205、2021
茎立期における UAV リモートセンシングを用いたオオムギの生育診断の可能性	鈴木孝明他 1 名	日本作物学会第 255 回講演会、2023

3 いちごに関する研究

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
イチゴの省エネルギー生産技術の開発	畠山昭嗣他 2 名	園芸学研究 14(別 2)、p.405、2015
間欠冷蔵処理がとちおとめ及びスカイベリーの花芽分化に及ぼす影響	小林泰弘他 1 名	園芸学研究 14(別 2)、p.420、2015
イチゴの少量培地多植栽培法の開発	中西達郎他 2 名	園芸学研究 15(別 1)、p.314、2016
温度管理および土壌中窒素量がイチゴ品種‘栃木 i27 号’における着色不良果の発生に及ぼす影響	小林泰弘他 2 名	園芸学研究 15(別 2)、p.146、2016
摘花がイチゴ‘スカイベリー’の果実品質および奇形果の発生に及ぼす影響	大橋隆他 1 名	園芸学研究 17(別 1)、p.156、2018
イチゴの次世代型生産技術開発	大橋隆	施設と園芸 No180、p.22-25、2018
イチゴ新品種‘栃木 iW1 号’の育成	鶴見理沙他 3 名	園芸学研究 17(別 2)、p.425、2018
「いちご王国」を支える新品種・新技術の開発	大橋隆	表面と真空 92、p.1612019
3次元形状計測センサを活用したイチゴの乾物生産量の推定	齋藤容徳他 3 名	園芸学研究 18(別 2)、p.177、2019
イチゴ新品種‘栃木 i37 号’の育成	飯村一成他 7 名	園芸学研究 18(別 2)、p.353、2019
イチゴ新品種‘栃木 iW1 号’・‘栃木 i37 号’の香りの評価	鶴見理沙他 2 名	園芸学研究 18(別 2)、p.354、2019
白イチゴ新品種‘ミルキーベリー(品種名：栃木 iW1 号)’の育成	鶴見理沙	施設と園芸、p.40、2020
白イチゴ新品種‘ミルキーベリー(品種名：栃木 iW1 号)’の育成	鶴見理沙	みんなの農業広場 HP「注目の農業技術」、2020
消費流通試験を用いた製品計画－イチゴ新品種の流通関係者・消費者の評価－	関口雄介	関東東海北陸農業経営研究第 111 号、p.14-23、2021
栃木県のイチゴ品種開発の現状と今後の方向	家中達広	施設と園芸 192(2021 年冬)号、p.212021
イチゴの光合成量と着果負担量の推定	齋藤 容徳他 3 名	園芸学研究 21(別 2)、p.205、2022
栃木県におけるイチゴの斑入り症状の発生	半田有宏他 5 名	園芸学研究 23(別 1)、p.116、2024
ウォーターカーテンパイプハウス内における環境がイチゴの収量に及ぼす影響	稲葉瑛世他 1 名	園芸学研究 23(別 1)、p.120、2024
灌水量がイチゴ‘とちあいか’の頂花房における先つまり果の発生に及ぼす影響	村岡弘庸他 3 名	園芸学研究 23(別 1)、p.123、2024
イチゴ‘とちあいか’の先つまり果発生要因の推定	村岡弘庸他 1 名	日本園芸学会春季大会、2025

4 野菜に関する研究

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
蓄熱式栽培環境制御システムにおける高生産・省エネ技術の開発 (第 5 報)	大島一則他 4 名	園芸学会平成 27 年度秋季大会、2015
最近のニラ品種の光合成特性、休眠特性と日長反応に関する調査	大島一則他 3 名	園芸学研究 16(別 1)、p.159、2017

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
花粉親特異的 DNA マーカーによる選抜を介したニラ新品種「ゆめみどり」の育成	大島一則他 10 名	園芸学研究 16(別 4)、p.401、2017

5 果樹に関する研究

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
ニホンナシ盛土式根圏制御栽培法における作業効率の評価	大谷義夫他 2 名	園芸学研究 14(別 2)、p.127、2015
ニホンナシ根圏制御栽培法における省力的な施肥法および誘引手法	大谷義夫他 2 名	園芸学研究 14(別 2)、p.346、2015
夜間 LED 照射がぶどう品種‘安芸クイーン’の着色に及ぼす影響	鷲尾一広他 5 名	園芸学研究 14(別 2)、p.340、2015
花粉の種類がニホンナシ‘豊水’の結実、果実品質に及ぼす影響	大谷義夫他 1 名	園芸学研究 15(別 1)、p.70、2016
かん水中の溶存酸素量が根圏制御栽培法ニホンナシ生育に及ぼす影響	大谷義夫他 2 名	園芸学研究 15(別 2)、p.103、2016
多樹種での根圏制御栽培法による移植翌年の樹体生育と収量性	大谷義夫他 2 名	園芸学研究 16(別 1)、p.94、2017
栃木県におけるニホンナシ新品種の育成と普及	大谷義夫	果樹バイテク研究会、2016
栃木県における果樹品種の動向と展望	大谷義夫	果樹種苗、2016
ニホンナシ新品種「おりひめ」の育成	鷲尾一広	果樹バイテク研究会、2016
栃木県で育成したニホンナシ品種の栽培技術開発について	北原智史	果樹バイテク研究会、2016
果樹類の盛土式根圏制御栽培法の開発	大谷義夫	園芸学研究 16(別 2)、p.38-39、2017
ニホンナシ‘にっこり’の環状剥皮処理が果実品質に及ぼす影響	大谷義夫他 1 名	園芸学研究 16(別 2)、p.101、2017
ニホンナシの盛土式根圏制御栽培法	大谷義夫	農業技術体系、2017
ニホンナシの盛土式根圏制御栽培法	大谷義夫	果実日本、2017
花粉の種類がニホンナシの結実・果実品質に及ぼす影響	大谷義夫	果実日本、2017
苦節 24 年、本県初の青梨誕生	大谷義夫	しもつけの心、2017
次世代のなし栽培法「盛土式根圏制御栽培法」による早期多収	大谷義夫	施設と園芸、2017
根圏制御栽培法における樹種別の日吸水量	大谷義夫	園芸学研究 17(別 1)、p.63、2018
多くの果樹品種での根圏制御栽培法の実用性研究	大谷義夫	果実日本、2018
ナシ重要病害の防除対策と近年問題となっている病害	大谷義夫	果実日本、2018
なしの盛土式根圏制御栽培法における施肥技術	大谷義夫	グリーンレポート、2018
ニホンナシ挿し木苗「きらり」「にっこり」の果実特性	鷲尾一広他 4 名	園芸学研究 18(別 1)、p.57、2019
多目的防災網および燃焼資材の組み合わせ等による防霜対策	岡本春明	信州の果実 786 号、p.26-31、2021
ブドウ‘シャインマスカット’に発生する果実生理障害の発生要因	北原智史	園芸学研究 22(別 1)、p.76、2023
栃木県における近年の日本ナシ病害の発生動向と防除対策	北原智史	果実日本第 77 巻第 7 号、p.14-17、2022
果樹園の管理ポイント日本ナシ	岡本春明	果実日本第 79 巻第 2 号、p.84-86、2024
果樹園の管理ポイント日本ナシ	岡本春明	果実日本第 79 巻第 4 号、p.91-94、2024
果樹園の管理ポイント日本ナシ	岡本春明	果実日本第 79 巻第 6 号、p.92-94、2024
果樹園の管理ポイント日本ナシ	岡本春明	果実日本第 79 巻第 8 号、p.93-95、2024
果樹園の管理ポイント日本ナシ	岡本春明	果実日本第 79 巻第 10 号、p.94-96、2024
果樹園の管理ポイント日本ナシ	岡本春明	果実日本第 79 巻第 12 号、p.85-87、2024
追肥によるニホンナシ‘にっこり’の水浸状障害の抑制効果	岡本春明	園芸学研究 24(別 1)、p.44、2025

6 花き類に関する研究

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
アジサイの八重咲き性および手まり咲き性に関する連鎖解析	小玉雅晴他 6 名	園芸学研究 14(別 2)、p.253、2015

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
アジサイの F2 集団の花色発現の違いにおけるリン酸とクロロゲン酸の関与	小玉雅晴他 2 名	園芸学研究 15(別 1)、p.199、2016
アジサイの外縁白色型覆輪模様の遺伝様式と遺伝型の解析	小玉雅晴他 2 名	園芸学研究 15(別 2)、p.254、2016
バーク培地におけるコショウランの効率的施肥管理技術	小玉雅晴	農業と化学 2015.12、p.1-5、2015
バーク培地におけるコショウランの効率的施肥技術	小玉雅晴	グリーンレポート No.555、P10 ~11、2015
シクラメンの栽培体系と求められる技術開発	田邊雄太	植調第 50 巻第 5 号、p.6-9、2016
キクの冬季施設栽培における炭酸ガス施用効果	沼尾貴延他 2 名	園芸学研究 20(別 1)、p.310、2021
LED を利用したカトレアの開花制御技術	寺内信秀他 4 名	園芸学研究 20(別 1)、p.298、2021
炭酸ガス施用と換気温度が冬季におけるスプレーギクの生育に及ぼす影響	木田理紗子他 2 名	園芸学研究 21(別 1)、p.117、2022
秋色アジサイがく片における色素合成と発色機構	小玉雅晴他 2 名	園芸学研究 21(別 1)、p.73、2022
アジサイの DNA マーカーを利用した八重咲き選抜法の開発・色素成分に着目した育種	小玉雅晴	農業技術体系第 5 巻、2022
炭酸ガス施用と換気温度が冬季におけるスプレーギクの生育に及ぼす影響	緒方裕美子他 2 名	園芸学研究 23(別 1)、p.169、2024
アジサイの花色と葉に含まれる色素関連成分の関係	西川史他 2 名	園芸学研究 23(別 1)、p.367、2024
秋色アジサイの発色機構	小玉雅晴	植調 57(9)p.319-324、2023
夏季高温に対応したシクラメンの新たな生育診断指標の構築	西川史他 2 名	園芸学研究 24(別 1)、p.367、2025

7 生物工学に関する研究

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
イチゴ四季成り性連鎖マーカーの開発と萎黄病耐性連鎖マーカーの利用	生井潔	かずさ DNA 研究所ワークショップ「イチゴゲノム育種時代の幕開け」、2015
イチゴの遺伝子解析用ウイルスベクターの構築と利用技術の開発	生井潔	とちぎフードイノベーション戦略支援プログラム研究交流会、2015
オオムギ RNA-Seq に基づく多型検出とマーカー作成 (第 2 報) イチゴ品種‘なつおとめ’の四季成り性に連鎖する DNA マーカーの作出	岡田香織他 7 名 癸生川真也他 6 名	育種学研究 17(別 2)、p.247、2015 園芸学研究 14(別 2)、p.377、2015
イチゴ四季成り性連鎖 DNA マーカーの汎用性検証と Intercross 集団における適用	鈴木恵美子他 7 名	園芸学研究 14(別 2)、p.378、2015
栃木県におけるニホンナシ DNA マーカーの利用	阿久津翠他 5 名	平成 27 年度果樹バイテク研究会、2015
RNA-seq および濃縮ライブラリーによるニラ SSR マーカーの大量開発	田崎公久他 7 名	日本 DNA 多型学会第 24 回学術集会抄録集、p.60、2015
Gene expression profiles correlated with fruits color identified in the three MAGIC populations of cultivated strawberry (<i>Fragaria</i> × <i>ananassa</i>)	田崎公久他 8 名	RNA2016、2016
栃木農試リンドウ遺伝資源における花色関連遺伝子解析	生井潔他 3 名	園芸学研究 15(別 2)、p.248、2016
アジサイの八重咲き性連鎖マーカーの簡易検出法についての検討	阿久津翠他 6 名	園芸学研究 15(別 2)、p.255、2016
オオムギの萎縮病抵抗性に関する QTL 解析	岡田香織他 7 名	育種学研究 18(別 2)、p.227、2016
栃木県におけるバイテク技術の開発と利用	生井潔	平成 28 年度果樹バイテク研究会、2016
イチゴのゲノム解析とゲノミックセレクションの試み	田崎公久他 13 名	平成 28 年度果樹バイテク研究会、2016
栃木県におけるニホンナシ病害抵抗性 DNA マーカーによる実生選抜	阿久津翠他 3 名	平成 28 年度果樹バイテク研究会、2016
Transcriptome sequencing to investigate genes involved in fruits color in the three MAGIC populations of cultivated strawberry	田崎公久他 13 名	Plant and Animal Genome Conference XXV、2017
オオムギ種子休眠性 DNA マーカーの簡易検出法	岡田香織他 4 名	育種学研究 19(別 1)、p.43、2017
栽培イチゴ (<i>Fragaria</i> × <i>ananassa</i>) MAGIC 集団を用いた完着期果実の遺伝子発現プロファイリング	田崎公久他 16 名	園芸学研究 16(別 2)、p.207、2017
イチゴの果実硬度に関するゲノミックセレクションの試み	田崎公久他 13 名	園芸学研究 16(別 2)、p.208、2017
RAD-seq を用いたアジサイ‘城ヶ崎’由来の八重咲き性因子と連鎖する SNPs の探索	阿久津翠他 11 名	園芸学研究 16(別 2)、p.302、2017

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
四倍体ニラにおける複相大孢子形成性連鎖マーカーの作出 イチゴ炭疽病抵抗性連鎖マーカーの栃木農試遺伝資源における適用性 イチゴ萎黄病耐病性 DNA マーカーによる交配実生苗の選抜	生井潔他 10 名 高野純一 田崎公久	育種学研究 19(別 2)、p.35、2017 第 29 回栃木県病害虫研究会、2017 農研機構野菜花き研究部門国際シンポジウム、2018
イチゴの果実硬度に関するゲノミックセレクションの試み	田崎公久他 13 名	農研機構野菜花き研究部門国際シンポジウム、2018
イチゴ属植物炭疽病抵抗性関連マーカーの栃木農試集団における適用性と複数マーカー組合せによる選抜効果 二条オオムギの穂発芽耐性に与える休眠関連遺伝子 Qsd2 の効果	高野純一他 4 名 森香織他 9 名	園芸学研究 17(別 1)、p.118、2018 育種学研究 20(別 1)、p.171、2018
Development of DNA Markers Linked to Double-Flower and Hortensia Traits in <i>Hydrangea macrophylla</i> (Thunb.) Ser.	和氣貴光他 9 名	The Horticulture Journal 87(2)、p.264-273、2018
四季成りイチゴ MAGIC 集団における EGGS 解析を用いた果実硬度上昇効果	田崎公久他 13 名	園芸学研究 18(別 2)、p.175、2019
オオムギ縞萎縮病抵抗性品種育成のための GFP 発現ウイルスベクターの評価	田上舞他 5 名	育種学研究 22(別 1)、p.37、2020
両性生殖性系統と 2 つの生殖性連鎖マーカーを利用したニラ育種法の確立	中澤佳子他 4 名	育種学研究 22(別 1)、p.149、2020
イチゴ育種素材'栃木素材 3 号'由来の集団選抜用四季成り性連鎖 DNA マーカーの改良	田崎公久他 5 名	園芸学研究 19(別 1)、p.120、2020
GFP 発現ウイルスベクターを用いたオオムギ縞萎縮病抵抗性機構の解明	田上舞他 5 名	育種学研究 23(別 1)、p.84、2021
四倍体ニラにおける複相大孢子形成性の遺伝様式と分離集団の作成	中澤佳子他 4 名	育種学研究 22、p.39-42、2020
A genetic analysis of the resistance in barley to <i>Soil-borne wheat mosaic virus</i>	岡田香織他 4 名	Breed.Sci.70、p.617-622、2020
Utility of a GFP-expressing <i>Barley yellow mosaic virus</i> for analyzing disease resistance genes	田上舞他 12 名	Breed.Sci.71、p.484-490、2021
イチゴ栽培種における萎黄病抵抗性 QTL の検索 イチゴ炭疽病抵抗性育種のための培養苗接種法の確立	飯村一成他 5 名 福田理沙他 3 名	育種学研究 23、p.101-108、2021 第 33 回栃木県病害虫研究会、2021
Two dominant genes in barley (<i>Hordeum vulgare</i> L.) complementarily encode perfect resistance to <i>Japanese soil-borne wheat mosaic virus</i>	岡田香織他 9 名	Breed.Sci.72、p.372-382、2022
イチゴ四季成り性に連鎖する新規 DNA マーカーの探索 イチゴにおけるゲノミックセレクションと GWAS 解析を用いた育種選抜の効果実証	阿部朋孝他 6 名 柏谷祐樹他 12 名	園芸学研究 21(別 2)、p.136、2022 育種学研究 24(別 2)、p.96、2022
GWAS 解析を用いたイチゴ炭疽病耐病性 DNA マーカーの開発	柏谷祐樹他 5 名	第 34 回栃木県病害虫研究会、2023
イチゴ四季成り性に連鎖する新規 DNA マーカーの探索(第 2 報)	阿部朋孝他 6 名	園芸学研究 22(別 1)、p.298、2023
GWAS 解析による DNA マーカー開発のためのイチゴ炭疽病耐病性評価法の確立	田口真由他 3 名	育種学研究 25(別 1)、p.169、2023
Genetic resistance in barley against <i>Japanese soil-borne wheat mosaic virus</i> functions in the roots	岡田香織他 6 名	Front Plant Sci.14、p.1149752、2023
複数のイチゴ炭疽病耐病性分離集団を用いたゲノムワイド関連解析と SNP マーカーの検証	田口真由他 6 名	育種学研究(2)、p.185、2023
イチゴにおけるゲノミックセレクションと GWAS を用いた複数果実形質同時選抜の試み	豊田明奈他 12 名	育種学研究(2)、p.190、2023
複数のイチゴ炭疽病耐病性分離集団を用いたゲノムワイド関連解析と SNP マーカーの検証	田口真由他 1 名	第 35 回栃木県病害虫研究会、2023
ゲノム育種に向けたイチゴの DNA マーカー共同開発体制の構想	生井潔他 3 名	園芸学会令和 6 年度春季大会小集会「第 33 回イチゴフォーラム」、2024
INDELs linked to mophead-lacecap phenotype controlling gene <i>TEMARY</i> in <i>Hydrangea macrophylla</i>	田口真由他 7 名	IHIS Acta Horticulturae1434、2024
The SEP homologous gene <i>TEMARY</i> regulates inflorescence phenotypes in <i>Hydrangea Macrophylla</i> .	阿久津翠他 13 名	Horticulture Research 12、2025

8 病理昆虫（病害）に関する研究

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
夏秋イチゴ「なつおとめ」の花器および果実に発生したイチゴ炭疽病の化学的防除効果と 育苗期の耕種的防除効果	高野純一他 1 名	関東東山病害虫研究会報 62、P24-27、2015
乾熱処理と薬剤処理を組み合わせたオオムギ黒節病汚染種子の消毒	山城都他 3 名	関東東山病害虫研究会、2016
トマトかいよう病のトマト主要品種に対する発病の品種間差異	高橋怜子他 2 名	関東東山病害虫研究会、2016
感熱処理と薬剤処理を組み合わせたオオムギ黒節病汚染種子の消毒	山城都他 4 名	関東東山病害虫研究会報 63、p.3-5、2016
トマト黄化病の発生と防除対策	山城都	植物防疫、6、p.36-40、2016
栃木県におけるオオムギ斑葉病の発生と防除対策	山城都他 5 名	関東東山病害虫研究会、2017
栃木県における「アスカウェイブ」を侵すイチゴ萎黄病菌の発生推移	山崎周一郎他 5 名	関東東山病害虫研究会報 64、p.33-34、2017
栃木県におけるオオムギ斑葉病の発生と防除対策	山城都他 4 名	関東東山病害虫研究会報 64、p.150、2017
栃木県におけるオオムギ斑葉病の発生と防除対策	山城都他 1 名	植物防疫、p.48-512017
トマトかいよう病に対する高接ぎ木法および各種消毒資材の防除効果の検討	高橋怜子他 3 名	関東東山病害虫研究会、2018
LAMP 法によるオオムギ斑葉病迅速診断	駒場麻有佳他 4 名	関東東山病害虫研究会、2018
LAMP 法によるオオムギ斑葉病菌保菌種子の迅速検定	駒場麻有佳他 4 名	関東東山病害虫研究会報 65、p.22-25、2018
トマトかいよう病二次伝染防止のためのハサミ消毒の重要性	高橋怜子他 3 名	関東東山病害虫研究会報 65、p.26-28、2018
トマトかいよう病に対する長靴消毒資材と抵抗性誘導剤の検討	駒場麻有佳	第 30 回栃木県病害虫研究会、2018
栃木県におけるイチゴ青枯病の発生と耐病性の品種間差異	福田充他 2 名	関東東山病害虫研究会、2019
イチゴ青枯病の耐病性品種間差異	福田充他 2 名	関東東山病害虫研究会報 66、p.4-6、2019
リンドウ立枯病に対するコンテナ隔離栽培の防除効果	山崎周一郎	第 31 回栃木県病害虫研究会、2019
リンドウ立枯病に対するコンテナ隔離栽培の防除効果	山崎周一郎他 2 名	関東東山病害虫研究会、2020
リンドウ立枯病に対するコンテナ隔離栽培の防除効果	山崎周一郎他 3 名	関東東山病害虫研究会報 67、p.24-26、2020
イチゴ炭疽病 (<i>Colletotrichum nymphaeae</i>) に対する各種薬剤の効果	福田充	第 32 回栃木県病害虫研究会、2020
2核 <i>Rhizoctonia</i> AG-A および AG-G によるイチゴ黒色根腐病	山城都他 2 名	関東東山病害虫研究会報 68、p.10-12、2021
トマトフザリウム株腐病防除技術の確立	久保晶子	第 33 回栃木県病害虫研究会、2021
トマトフザリウム株腐病防除技術の確立について	久保晶子他 1 名	第 68 回関東東山病害虫研究会発表会(みなし開催)、2022
ナシ汚果症状の発生要因の解明	山城都	第 34 回栃木県病害虫研究会、2022
<i>Colletotrichum</i> sp.によるイチゴ炭疽病 (病原追加)	山城都他 3 名	日本植物病理学会大会、2024
トマトフザリウム株腐病の防除体系の実証	久保晶子	第 35 回栃木県病害虫研究会、2023
トマトフザリウム株腐病の防除体系の実証	久保晶子他 2 名	関東東山病害虫研究会第 70 回発表会、2024
上都賀地域のにらで発生した黄化腐敗症状について	堀米舞祐香	第 36 回栃木県病害虫研究会、2024

9 病理昆虫（害虫）に関する研究

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
冬季耕うんによるニラのネダニ類防除	西村浩志他 1 名	関東東山病害虫研究会報 62、p.144-148、2015
次世代型バンカー法によるイチゴのアブラムシ防除	西村浩志他 2 名	関東東山病害虫研究会、2016

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
ナケルクロアブラバチ <i>Ephedrus nacheri</i> Quilis の性配分に及ぼす寄主体サイズの影響	小林誠他 2 名	日本応用動物昆虫学会、2016
2 種のアブラバチを利用したイチゴのアブラムシ類防除	小林誠他 3 名	関東東山病害虫研究会報 63、p.73-80、2016
栃木県における天敵や高濃度炭酸ガス処理によるナミハダニ防除対策	小林誠	技術と普及 2016.8、p.40-42、2016
夏秋イチゴにおける炭疽病の発生と防除対策	小林誠他 2 名	植物防疫 70、p.721-725、2016
冬季耕うんによるニラのネダニ類の耕種的防除	西村浩志	植物防疫 70、p.746-751、2016
ワタアブラムシを寄主としたナケルクロアブラバチの生存と発育	小山田浩一	関東東山病害虫研究会報 64、p.94-97、2017
アブラムシ寄生蜂ナケルクロアブラバチ <i>Ephedrus nacheri</i> Quilis	小林誠他 2 名	関東東山病害虫研究会報 64、p.98-103、2017
侵入害虫クビアカツヤカミキリ <i>Aromia bungii</i> (Faldermann) の栃木県内モモ園地におけるの発生状況および防除対策の検討	小林誠他 6 名	関東東山病害虫研究会、2018
ナケルクロアブラバチおよびコレマンアブラバチのバンカー型製剤を利用したイチゴのアブラムシ類防除	小林誠他 3 名	関東東山病害虫研究会報 65、p.87-90、2018
栃木県におけるイチゴ苗生産体制と病害虫防除	福田充	第 18 回 RIBS バイオサイエンスシンポジウム、p.11、2018
栃木県におけるクビアカツヤカミキリの発生と試験研究の取り組み状況	春山直人	第 30 回栃木県病害虫研究会、2018
イチゴのアブラムシ類に対する次世代型バンカー法の現地実証試験	八板理	第 30 回栃木県病害虫研究会、2018
栃木県のモモ産地におけるクビアカツヤカミキリの発生及び被害状況等について	春山直人	常緑・落葉果樹病害虫研究会、2019
栃木県におけるクビアカツヤカミキリ成虫の発生消長とモモ被害樹内における幼虫の寄生状況について	春山直人他 3 名	関東東山病害虫研究会、2019
栃木県のイチゴ現地圃場におけるナケルクロアブラバチおよびコレマンアブラバチを用いた次世代型バンカー法によるアブラムシ類の防除について	八板理他 6 名	関東東山病害虫研究会、2019
栃木県のモモ園地におけるクビアカツヤカミキリの発生状況と樹幹内幼虫の寄生状況について	春山直人他 3 名	第 63 回日本応用動物昆虫学会大会、2019
栃木県におけるイチゴのアブラムシ類に対する次世代型バンカー法を用いた現地実証試験について	八板理他 6 名	第 63 回日本応用動物昆虫学会大会、2019
栃木県のイチゴ生産圃場における次世代型バンカー資材キットを用いたアブラムシ類に対する防除効果	八板理他 6 名	関東東山病害虫研究会報 66、p.64-69、2019
栃木県のモモ産地におけるクビアカツヤカミキリの発生と被害状況	春山直人他 5 名	関東東山病害虫研究会 66、p.106-109、2019
被覆資材を用いたニラのネダニ類防除	八板理	第 31 回栃木県病害虫研究会、2019
被覆資材を用いたニラのネダニ類防除	八板理他 2 名	関東東山病害虫研究会、2020
クビアカツヤカミキリの生態および栃木県での発生・対応について	春山直人他 2 名	第 64 回日本応用動物昆虫学会大会、2020
被覆資材を用いたニラのネダニ類防除	八板理他 2 名	第 64 回日本応用動物昆虫学会大会、2020
ニラのネダニ類に対する被覆資材を用いた土壌熱処理の効果	八板理他 2 名	関東東山病害虫研究会報 67、p.62-64、2020
モモ樹内におけるクビアカツヤカミキリ幼虫の寄生状況と頭幅分布	春山直人他 2 名	関東東山病害虫研究会報 67、p.79-83、2020
クビアカツヤカミキリの生活環と栃木県における発生・対応について	春山直人	第 64 回日本応用動物昆虫学会大会、特別小集会、2020
緑肥作物によるニラネダニ類密度低減効果の検討	八板理	第 32 回栃木県病害虫研究会、2020
栃木県におけるクビアカツヤカミキリの発生と対応状況	春山直人	森林科学 89、p.6-10、2020
モモ・スモモにおけるクビアカツヤカミキリの蛹室形成位置	春山直人他 2 名	第 65 回日本応用動物昆虫学会大会、2021
栃木県のモモ園における 3 か年のクビアカツヤカミキリ成虫の発生消長と現地防除対策の有効性の検討	春山直人他 2 名	関東東山病害虫研究会報 68、p.70-75、2021
栃木県におけるクビアカツヤカミキリの蛹室形成・蛹化・羽化時期	春山直人他 2 名	関東東山病害虫研究会報 68、p.76-79、2021

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
モモ・スモモにおけるクビアカツヤカミキリの蛹室形成位置	春山直人	第 65 回日本応用動物昆虫学会大会、2021
モモ樹内におけるクビアカツヤカミキリ幼虫の寄生状況と頭幅分布および蛹室形成位置	春山直人	植物防疫 75、p.9-13、2021
麦類生産ほ場におけるアブラムシ類の土着天敵発生状況調査	春山直人	第 33 回栃木県病害虫研究会、2021
クビアカツヤカミキリ成虫の脱出開始日予測法の開発	春山直人	第 66 回日本応用動物昆虫学会大会、2022
栃木県内の麦類ほ場はアブラムシ類の土着天敵供給源として機能し得るか	春山直人	第 68 回関東東山病害虫研究会発表会(みなし開催)、2022
CAPS マーカーによるクビアカツヤカミキリと他種カミキリムシの識別	春山直人他 1 名	関東東山病害虫研究会報 69、p.92-97、2022
緑肥作物によるニラのネダニ類に対する密度抑制効果の検証	小林佑	第 34 回栃木県病害虫研究会、2022
栃木県の麦類ほ場はアブラムシ類に対する土着天敵の発生に寄与しているか?	春山直人他 2 名	天敵利用研究会、2022
緑肥作物によるニラのネダニ類に対する密度抑制効果の検証	小林佑他 2 名	第 69 回関東東山病害虫研究会発表会、2023
各種資材によるクビアカツヤカミキリの侵入防止及び被害抑制効果	春山直人他 2 名	応用動物昆虫学会大会、2023
緑肥作物によるニラのネダニ類に対する密度抑制効果の検証 難防除害虫の最新情報と現場で取れる対策 (ハクサイダニ)	小林佑他 2 名 春山直人	応用動物昆虫学会大会、2023 技術と普及 2023.3、p.10-11、2023
CAPS マーカーによるクビアカツヤカミキリと他種カミキリムシの識別	春山直人他 1 名	植物防疫 77、p.517-521、2023
栃木県のモモ産地におけるクビアカツヤカミキリ被害と対策及び試験研究の取り組み	春山直人	第 27 回農林害虫防除研究会和歌山大会、2023
モモのクビアカツヤカミキリ積算温度で成虫の初発日がわかる	春山直人	現代農業 2023.6、p.208-211、2023
クビアカツヤカミキリ卵における生物蛍光の発見とブラックライトによる簡易検出法	春山直人	植物防疫 78、p.157-163、2024
クビアカツヤカミキリの侵入・産卵阻止技術の現地実証試験及び卵の蛍光に関するいくつかの知見	春山直人他 2 名	応用動物昆虫学会大会、2024
緑肥作物によるニラのネダニ類に対する密度抑制効果の検証 いちごのアザミウマ類に対する総合防除体系	小林佑他 2 名 野澤聡華	応用動物昆虫学会大会、2024 第 35 回栃木県病害虫研究会、2023
いちごのアザミウマ類に対する総合防除体系の検討	野澤聡華他 3 名	関東東山病害虫研究会第 70 回発表会、2024
いちごのアザミウマ類に対する総合防除体系	野澤聡華他 2 名	応用動物昆虫学会大会、2024
栃木県におけるクビアカツヤカミキリの飛来・産卵阻止技術の開発と実証について	小林 佑	第 36 回栃木県病害虫研究会、2024
紫外光に対するクビアカツヤカミキリの行動への影響	吉澤比英子	関東東山病害虫研究会第 71 回発表会、2025
栃木県における天敵温存植物ミックスの開花特性とナスほ場での利用の検討	野澤聡華他 3 名	応用動物昆虫学会大会、2025
クビアカツヤカミキリの侵入・産卵阻止技術の現地実証試験及び室内における無効産卵の検討	小林佑他 3 名	応用動物昆虫学会大会、2025

10 土壌環境に関する研究

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
栃木県黒ボク土水田における水稻の放射性セシウム吸収 – 同一施肥管理ほ場での 経年変化 –	宮崎成生他 3 名	日本土壌肥料学会講演要旨集 61、p.152、2015
有機水稻栽培の継続が土壌・水稻に及ぼす影響	櫻岡良平他 3 名	日本土壌肥料学会関東支部大会講演要旨集、p.1、2015
黒ボク土水田での鉄資材施用が水稻のヒ素吸収に及ぼす影響	宮崎成生他 5 名	日本土壌肥料学会関東支部大会講演要旨集、p.10、2015
那須扇状地の養分動態に対する水田の影響	亀和田國彦他 3 名	日本土壌肥料学会関東支部大会講演要旨集、p.14、2015

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
土壌の可給態窒素量と移植前湛水期間が水稻作付期間中の湛水土壌中アンモニウム態窒素および水稻の生育収量に及ぼす影響	櫻岡良平	日本土壌肥料学会講演要旨集 63、partIII-p.21、2017
多湿黒ボク土水田での鉄資材施用が水稻のヒ素吸収に及ぼす影響—2作目への効果—	宮崎成生他 6 名	日本土壌肥料学会講演要旨集 63、partIII-p.23、2017
いちごスカイベリー先端まだら果発生における土壌要因の解明	野崎律子他 2 名	日本土壌肥料学会講演要旨集 63、partIII-p.26、2017
米ぬか発酵肥料の製造方法および肥効特性	中西陽子他 2 名	日本土壌肥料学会講演要旨集 63、partIII-p.37、2017
米ぬか発酵肥料作製過程におけるリンの化学形態変化：31P-NMR による解析	大島正稔他 3 名	日本土壌肥料学会講演要旨集 63、partIII-p.37、2017
黒ボク土露地畑における冬作の麦類導入が窒素溶脱抑制に与える影響 堆肥連用による窒素溶脱量の推移と無機態窒素生成速度の推定	人見良実他 5 名	日本土壌肥料学会講演要旨集 63、partIII-p.34、2017
栃木県内農地土壌の Cu、Zn、Cd、As および Pb 濃度	大谷寿一	日本土壌肥料学会講演要旨集 63、partIII-p.34、2017
31P-NMR による米ぬか及び米ぬか発酵肥料の土壌中における動態解析	大島正稔他 3 名	日本土壌肥料学会講演要旨集 63、p.18、2017
カリ無施用ポット栽培による水稻の放射性セシウム吸収への土壌の潜在的リスク評価	宮崎成生他 1 名	日本土壌肥料学会講演要旨集 63、p.1512017
緑肥作物の導入による窒素溶脱抑制	関口雅史	日本土壌肥料学会講演要旨集 63、p.160、2017
イチゴ品種スカイベリーの先端まだら果発生症度と果実および葉身中成分濃度の関係	大谷寿一	日本土壌肥料学会関東支部大会講演要旨集、p.6、2017
栃木県大豆の多収阻害要因の実態解明—第 1 報	大島正稔	日本土壌肥料学会関東支部大会講演要旨集、p.28、2017
那須扇状地の養水分動態に及ぼす伏流水と水田の影響 I. 水分動態	亀和田國彦他 3 名	日本土壌肥料学会誌、第 89 巻 (2)、p.108-120、2018
那須扇状地の養水分動態に及ぼす伏流水と水田の影響 II. 養分動態	亀和田國彦他 3 名	日本土壌肥料学会誌、第 89 巻 (2)、p.121-135、2018
Impacts of climate change on soil nitrogen kinetics and rice production in Andisolpaddy fields	亀和田國彦他 1 名	Soil Science and Plant Nutrition 64(6)、p.752-766、2018
31P-NMR スペクトルを利用した家畜堆肥中リンの土壌中における動態解析	大島正稔他 2 名	日本土壌肥料学会講演要旨集 64、p.24、2018
カリ無施用水稻ポット栽培による土壌の放射性セシウム移行リスク評価	宮崎成生他 1 名	日本土壌肥料学会関東支部大会講演要旨集、p.28、2018
気候変動による黒ボク土水田土壌の窒素動態と水稻生育への影響	亀和田國彦他 1 名	日本土壌肥料学会関東支部大会講演要旨集、p.16、2018
栃木県大豆の多収阻害要因の実態解明—第 2 報、2018 年度日本土壌肥料学会関東支部大会講演要旨集、大島正稔、p.22、2018	大島正稔	日本土壌肥料学会関東支部大会講演要旨集、p.22、2018
簡易ライシメータによる牛糞堆肥連用の環境への影響評価	人見良実他 1 名	日本土壌肥料学会関東支部大会講演要旨集、p.30、2018
埋設型ライシメーター利用による黒ボク土畑での牛糞堆肥連用が窒素動態に及ぼす影響評価	人見良実他 2 名	日本土壌肥料科学雑誌 91(4)、p.217-227、2020
牛ふん堆肥利用による混合堆肥複合肥料の製造方法の検討	野崎律子他 2 名	日本土壌肥料学会関東支部埼玉大会、2020
Radiocesium transfer from Andosols to brown rice in the northern and northwest areas of Tochgi Prefecture、 in the first 3 years following the 2011 Fukushima Daiichi nuclear power plant accident	鈴木聡他 5 名	Soil Science and Plant Nutrition 66、p.515-526、2020
水稻生育期間中の土壌溶液中の硫酸ならびに鉄、銅および亜鉛の濃度推移	大島正稔他 1 名	日本土壌肥料学会関東支部千葉大会、2021
Changes in chemical form of phosphorus in rice bran during fermentation process as determined by 31P nuclear magnetic resonance spectroscopy	大島正稔他 4 名	Soil Science and Plant Nutrition 68、p.421-428、2022
施設土壌へのリンの蓄積が微量金属可溶性に及ぼす影響	亀和田國彦	日本土壌肥料学会東京大会、2022
黒ボク土下層土の潜在的炭素貯留能力	亀和田國彦	日本土壌肥料学会関東支部茨城大会、2022

表題	執筆者	雑誌, 巻, 発行年
Hill 式を用いた収量構成モデルによる実態調査データの解析 土壌の窒素無機化汎用モデルの作成～水田転換畑への適用～	亀和田國彦他 3 名 中山恵他 2 名	日本土壤肥料学会 2023 年度関東支部大会、2023 日本土壤肥料学会 2023 年度関東支部大会、2023
A proposed method for determining potentially environmentally available trace metals in paddy soil	亀和田國彦他 1 名	Soil Science and Plant Nutrition 70, p.123-128、2024 (Published online: 19 Jan 2024)
Modeling and simulation of sulfur availability in paddy soils under reducing environment considering heavy metal content 水田土壌中硫酸イオン抽出法の比較	亀和田國彦他 2 名 亀和田國彦他 1 名	Soil Science and Plant Nutrition 70, p. 283-294、2024 日本土壤肥料学雑誌 95、 p. 134-137、2024
Introduction of a consecutive first-order reaction model for soil nitrogen mineralization and derivation of parameters based on chemical analysis values	亀和田國彦他 2 名	Soil Science and Plant Nutrition 71, p.113、2024
畑作物のカドミウム(Cd)含量は作土の土壌溶液 Cd 濃度に規定される、日本土壤肥料学会 R6 年度関東支部大会講演要旨集、13、2024、 亀和田國彦・中山恵 現地実態調査でたまねぎの低収量要因を解明	亀和田國彦他 1 名 下山夏輝	日本土壤肥料学会 2024 年度関東支部大会講演要旨 集、p.13、2024 グリーンレポート No.673、p8～ 9、2025